

久野原の御田（有田川町久野原）

久野原の御田は、和歌山県の無形民俗文化財に指定されている伝統芸能です。有田川町東部に位置する久野原区の岩倉神社境内において、2月11日（建国記念の日）に奉納されます。久野原区には、約4000年前の縄文時代の遺跡が知られており、鎌倉時代の高野山文書には「久美原」という名前が登場するなど、古くから人々が生活を行っていた地域です。しかし、一方で用水路を整備することが困難な地域でもあり、長らく水不足に悩まされていた地域でした。「久野原の御田」はこのような状況の中で稲作の生産過程を模倣的に演じる事により、その年の五穀豊穣を神仏に祈願するために行われてきたものです。

全国に伝承されている御田のほとんどが田植えの所作までですが、久野原の御田は田起こしから



ら、稲刈り、初供えまでの全生産工程を舅が聲に教えるもので、このような例は全国的にも珍しく、大変貴重なものと評価されています。出演者の中で太鼓打ちは、御田行事を統率し、高揚させ、全体のリズムを作る重要な役割を果たしています。また、子ども達によって演じられる早乙女は、御田の終盤で登場し、その愛くるしい動作によって華やいだ雰囲気となります。

久野原の御田の特徴は、御田に先立って行われるお渡りに、御田の出演者だけではなく、乳児を抱いた母親等が含まれ、小児の村入り行事も兼ねていること、主役が何も台詞を語らず周りの掛け合いに応じて演技をすること、頭に鉢巻きを着用すること等があげられ、有田川町杉野原に伝承されている杉野原の御田舞と比較して趣の異なる御田行事となっています。

現在、「久野原の御田保存会」を中心とした久野原区民の努力により、400年以上にもわたる伝統が継承され、次世代へ引き継がれようとしています。ぜひとも2月11日には多くの皆様に現地を訪れ、この歴史ある伝統芸能をご観覧いただき、その息吹にふれていただければと思います。

◆久野原御田が2月11日(月)に奉納されます。
お渡り開始 12時30分、御田 13時

